

ス・ユ・ニ・日・中

版 コ ス シ

道新 1182 道新 1182 道新 1182 道新 1182 (本編トプ追加)

甲口新 1108 完成近の若大橋-福岡-1112 (本編トプ追加)

高知新 1267 本編同 No. 4 3 2 37.4.27

新愛娘 1121

ドミニカに夢破れて

— 横浜・東京 —

四月廿三日、ドミニカ移民帰国者二百七名が横浜港に帰って来ました。政府のずさんな移民政策で、財産の全てを失ったこの人達は、日本での再出発にも不安顔です。『悲劇のドミニカ移民』帰国者の前途はなお多難のようです。

ニッポンのウエスタン

— 東京 —

全米一の拳銃早射ち名人リード・マーク少年がこの程来日しました。昨今、日本でのウエスタン熱は本場をものぐ有様です。ここに紹介する高橋さんは、日曜日になると、一家おそろいのウエスタン、スタイルで銀ブラ。又、市川に住む根本さんは自他共に許すニッポンの西部男で、今日は、OK牧場の決斗シーンを再現してくれます。植木屋に勤める鎌田さんはウエスタン・ムード派です。部屋の中に西部の荒野をアレンジして生活しています。とかくせちがらいこの世の中、ニッポンのウエスタンも一つの生き方を示すものでしょう。

アイモ風土記

一 神都伊勢の周辺

かつて神国日本の象徴として巖然たる地位を占めて来た伊勢大神宮、江戸時代には庶民の間でお伊勢参りと称して一生の間に一度はお伊勢まいりをするという不文律さえ生まれ人々とは切っても切れない縁にありました。

弥次喜多道中でにぎわった古市の遊廓も火の消えた様。つとより”とにぎわった古市の遊廓も火の消えた様。

しかし昨今の交通の発達は、その昔のお参り風景に変わり、観光バスを連ねてのおいせ参り、だが参拝とは名ばかり、風の様にやって来て風の様に去って行く、これを稀して当の地文では”走り参宮”今日此頃では飛び参宮とまで皮肉の仕末。

こうした中であたかも神の権威失墜をばん回するかの如く、伊勢神宮では終戦直後、魔校の浮目にさらされていた神宮皇学館を復活、皇学館大学と名も新たに”日本の伝統精神”神学をうたい文句として再出発の門出を祝ったのです。

しかしお伊勢様と共に今日迄共栄共存の道を歩んで来た伊勢の町では、近頃、南勢開発の一環として国鉄の誘致も決り、これをきっかけとして新しく観光都市へ衣がえしようとする動きもある様です。